

富士見市立

資料館活動報告

2012

水子貝塚資料館・難波田城資料館

平成19～23年度の活動

埼玉県 富士見市立資料館

はじめに

水子貝塚資料館は、昭和 48 年に開館した富士見市立考古館を前身とし、平成 10 年に現在地に移転、12 年に改称した。郷土の考古資料の調査研究をとおりこれらの保存・整理を図るとともに、市民が文化財に親しみ学習する機会や情報の提供を行ってきた。水子貝塚公園（愛称「縄文ふれあい広場」）は、国指定史跡水子貝塚の保存と活用を目的に、平成 6 年に開園した史跡公園である。

難波田城資料館は、平成 12 年に難波田城公園とともに開館・開園した。郷土の歴史・民俗資料を調査・研究・収集・保管し、それらの資料を介して学習の充実を図るとともに、難波田城公園の活用及び管理を行ってきた。難波田城公園は、県指定旧跡である難波田城跡に戦国時代の城構えを復元するとともに、敷地の一部に古民家を移築し農家の屋敷地を再現した、歴史公園である。

これらの施設は、市民が文化財に親しむとともに、憩いやふれあいの場となるような、史跡と自然が一体となった野外博物館的な施設である。両施設を管理する市立資料館は、それぞれの特性を生かした事業の展開とともに、両施設の一体的利用・活用の推進、相乗効果となる事業の推進を図ってきた。

市立資料館は、その事業と施設の概要を紹介するために、要覧を発行してきた。2005 年から、資料館の資料を活用した研究成果の報告も掲載することとした。今号は、最近 5 年間の事業の紹介、新収蔵資料の紹介に加え、松戸市教育委員会の峰村篤氏から、当館収蔵資料の再検討に基づいて玉稿をいただくことができた。収蔵資料にさまざまな観点から“光を当て直す”ことによって、今後も多くの成果を得ることが期待される。

この報告をとおり、富士見市立資料館の活動をご理解いただき、さらなる活用につなげていただけるようお願いするところである。

目 次

I	沿 革	3
II	目 標・組 織・決 算	4
	1 市立資料館の目標	4
	2 市立資料館の組織と職員	4
	3 決算	5
	4 施設修繕	6
III	資料館事業の報告	8
	1 水子貝塚資料館	8
	2 難波田城資料館	12
IV	入館者・利用者	16
	1 水子貝塚資料館	16
	2 難波田城資料館	17
V	支援組織・関連団体	18
	1 市民学芸員	18
	2 協力団体	18
	3 加入協議会	19
VI	資料報告	20
	難波田城公園の蓮	20
	新収蔵資料紹介 -鶴馬・馬場家の板碑-	21
	富士見市南通第3地点出土の弥生土器について -オオバコ回転文の一事例-	22

I 沿革

- | | | |
|-------------|--|--|
| 大正 6(1917) | 水子貝塚を「遺跡」として発見 | として採納 |
| 昭和 3(1928) | 難波田氏館跡を県史跡に指定 | 平成 3(1991) 難波田氏館跡歴史公園整備基本計画策定／考古館が社会教育機関として独立／水子貝塚が史跡等活用特別事業採択を受け、環境整備工事に着手(平成3～5年度) |
| 昭和 12(1937) | 水子貝塚を「貝塚」として発見 | |
| 昭和 13(1938) | 東京考古学会による水子貝塚発掘 | |
| 昭和 14(1939) | 東京帝国大学による水子貝塚発掘 | |
| 昭和 36(1961) | 難波田氏館跡を県旧跡に指定変更 | 平成 4(1992) 水子貝塚保存会がシラコバト賞受賞 |
| 昭和 42(1967) | 富士見町教委による水子貝塚発掘 | 平成 5(1993) 旧大澤家住宅曳家工事／難波田氏館跡歴史公園整備検討委員会設置／難波田氏館跡歴史公園整備に伴う発掘調査着手(3カ年) |
| 昭和 44(1969) | 水子貝塚を国指定史跡に指定 | 平成 6(1994) 難波田氏館跡歴史公園整備基本設計策定／6月1日、水子貝塚公園開園／同日、富士見市歴史の広場条例施行 |
| 昭和 45(1970) | 水子貝塚土地公有化事業開始 | 平成 7(1995) 旧鈴木家表門解体保存工事／水子貝塚公園が建設省「手づくり郷土賞(歴史・文化部門)」受賞 |
| 昭和 46(1971) | 水子貝塚仮整備計画事業 | 平成 8(1996) 旧大澤家住宅解体保存工事 |
| 昭和 47(1972) | 上南畑 306-1 に社会教育課整理室として考古館建設 | 平成 9(1997) 難波田城資料館・公園実施設計／難波田城公園整備工事着手(3カ年継続)／水子貝塚公園隣接地に考古館事務所新設 |
| 昭和 48(1973) | 富士見市立考古館開館 | 平成 10(1998) 難波田城資料館建築工事完了／難波田城公園古民家復原工事実施設計／考古館移転・開館、旧考古館は文化財整理室に |
| 昭和 53(1978) | 考古館隣接地に富士見市遺跡調査会事務所建設 | 平成 11(1999) 難波田城資料館展示設計／史跡指定30周年・開園5周年記念「水子貝塚まつり」開催／市民学芸員養成講座開始 |
| 昭和 54(1979) | 水子貝塚保存管理計画策定／難波田氏館跡歴史公園用地取得に着手 | 平成 12(2000) 6月1日、難波田城資料館・難波田城公園オープン／同日、富士見市立資料館条例施行し、「考古館」を「水子貝塚資料館」に改称／市民学芸員制度開始 |
| 昭和 56(1983) | 難波田氏館跡範囲確認のための基礎調査着手(5カ年) | 平成 13(2001) 難波田城公園南駐車場竣工／難波田城公園が国土交通省「手づくり郷土賞(地域整備部門)」受賞 |
| 昭和 57(1982) | 「文化財シンポジウムー私たちのくらしと史跡ー」開催 | 平成 14(2002) 水子貝塚公園駐車場竣工 |
| 昭和 58(1983) | 水子貝塚保存整備基本計画策定のための基礎調査着手／考古館友の会発足 | |
| 昭和 59(1984) | 水子貝塚「埼玉百選」10位入賞／市民有志による地域シンポジウム「遺跡のまち・富士見」開催 | |
| 昭和 60(1985) | 水子貝塚保存整備基本計画策定 | |
| 昭和 63(1988) | 文化庁に史跡等活用特別事業計画申請書提出／旧金子家住宅解体保存工事実施 | |
| 平成元(1989) | 水子貝塚史跡指定20周年記念事業 | |
| 平成 2(1990) | 水子貝塚専門調査研究委員会設置／水子貝塚整備計画検討のための発掘調査着手(3カ年)／遺跡調査会事務所を考古館施設 | |

Ⅱ 目標・施設管理

1 市立資料館の目標

- ・公園施設や植栽の維持管理に努め、富士見市を代表する観光施設として四季を通じて楽しめる公園をめざす。
- ・資料の整理を推進し、資料の蓄積や利用の拡大を図るとともに適正な管理の徹底を図る。
- ・資料館友の会や市民学芸員との連携・協働をさらに進め、新たな事業展開を図る。
- ・地域団体との連携事業を推進し、来園者サービスの一層の充実を図る。
- ・教科の単元や総合的な学習の時間など学校教育との連携を推進していく。
- ・水子貝塚公園の環境を活かした事業を開催する。
- ・年中行事や昔の遊び体験など、難波田城公園の古民家を生かした事業を実施する。

2 市立資料館の組織と職員

(1) 資料館本館／水子貝塚資料館

館長 荒井幹夫(～21.3) 根岸悦雄(21.4～23.3) 島村敏昭(23.4～)。分館長兼務

管理グループ 主査 島村安行(～22.3) 主査 荒井富美子(22.4～)
主査 石坂洋子(～21.3) 主査 宮崎はつね(21.4～)

学芸グループ 主任(学芸員) 早坂廣人(～21.3) 主査(学芸員) 和田晋治(21.4～)
主任(学芸員) 隈本健介(～20.3) 主任(学芸員) 堀善之(20.4～)

非常勤嘱託 事務員 戸田美根子(～21.6) 竹中ちさと(21.7～)
事務員 佐々木真理子(～21.3) 柳田清子(21.4～)

(2) 資料館分館／難波田城資料館

分館長 坂間明夫(～20.3) 島村敏昭(20.4～。23.4から本館長兼務)

管理グループ 主査 小出輝雄(～20.3) 主査 前島真知子(20.4～21.3)
主任 御厨裕孝(20.4～) 主任 駒木敦子(22.4から管理兼務。23.4から主査)

学芸グループ 主任(学芸員) 和田晋治(～21.3) 主任(学芸員) 早坂廣人(21.4～。22.4から主査)
主任(学芸員) 駒木敦子(20.1～21.4産育休。22.4から管理兼務。23.4から主査)

非常勤嘱託 資料整理専門員 石塚宏明
事務員(民具整理) 柳田清子(～21.3) 瀬戸加代子(21.4～22.3) 村田由美子(22.4～)
産育休代替 佐野絹子(20.2～20.12) 瀬戸加代子(21.1～21.3)
作業員 佐々木紀之(21.7～)
作業補助員 野村晋
専門員(再任用職員) 荒井幹夫(21.4～21.6) 会田明(23.4～)

3 決算（単位千円）

（1）水子貝塚公園運営事業

費目	H19 決算	H20 決算	H21 決算	H22 決算	H23 決算	備考
賃金	1,413,700	1,393,600	4,698,985	6,437,133	6,613,296	H21 から資料館一括
報償費	410,000	431,000	418,500	418,500	384,000	
旅費	1,940	1,840	7,440	1,640	4,540	H21 から資料館一括
需用費	3,549,936	4,741,050	3,097,694	3,165,726	3,235,366	
役務費	529,277	577,461	884,812	764,357	882,046	H21 から資料館一括
委託料	13,762,878	11,534,647	14,076,841	15,383,861	14,382,964	
使用料及び賃借料	1,395,152	1,421,164	1,146,536	1,027,989	769,308	
工事請負費	0	4,851,000	17,797,500	0	2,152,500	園路再舗装ほか
原材料費	69,319	76,970	89,691	59,572	85,837	
備品購入費	39,919	(H20 より図書購入費が消耗品に)				
負担金及交付金	14,000	14,000	24,000	24,000	24,000	埼博連ほか
公課費	18,900	27,700	32,100	26,400	34,000	自動車諸税
合計	21,205,021	25,070,432	42,274,099	27,339,678	28,567,857	

（2）難波田城公園運営事業

費目	H19 決算	H20 決算	H21 決算	H22 決算	H23 決算	備考
賃金	2,731,000	4,300,656	(水子貝塚運営事業に一括)			
報償費	420,500	411,500	443,000	409,500	455,500	
旅費	4,480	6,980	(水子貝塚運営事業に一括)			
需用費	3,953,255	5,082,479	9,894,987	4,560,133	5,375,816	増減は主に修繕料
役務費	335,468	335,562	(水子貝塚運営事業に一括)			
委託料	8,812,692	7,862,900	14,205,501	13,963,770	15,519,550	増減は主に緊急雇用
使用料及び賃借料	522,827	484,972	310,872	307,468	307,248	
工事請負費	0	0	0	9,000,000	13,648,500	園路再舗装
原材料費	0	55,532	33,859	55,896	56,770	
備品購入費	0	0	0	0	0	
負担金及交付金	10,000	10,000	(埼史協会費を水子に)		3,500	H23 は防火管理講習
公課費	13,200	13,200	(水子貝塚運営事業に一括)			
合計	16,803,422	18,563,781	24,888,219	28,296,767	35,366,884	

4 施設修繕

両公園とも、開園から10年以上経過し、老朽化などによる大規模修繕が多くなってきた。よって、過去5年間の主要な修繕（工事費によるものも含む）や植栽の大規模剪定等について紹介する。

（1）水子貝塚公園運営事業

年度	修繕箇所	原因	執行額	工期
H19	第17号復原住居屋根差茅修繕	経年劣化	1,795,500	H19.11
H20	公園導入路舗装修繕	経年劣化	861,000	H20.4～5
H20	展示館屋上防水工事	経年劣化	4,851,000	H20.7～8
H20	樹木剪定	樹木成長	472,500	H21.1～2
H20	学習広場テーブル修繕（2台）	経年劣化	299,250	H21.2～3
H21	樹木枝下ろし	樹木成長	630,000	H22.1～2
H21	公園園路舗装	経年劣化	17,797,500	H22.2～3
H22	樹木枝下ろし・立ち枯れ樹木処理	樹木成長・枯死	1,716,750	H23.2～3
H23	展示用電球LED化	節電対策	112,160	H23.6～7
H23	展示施設空調機オーバーホール	製品寿命	115,500	H23.7
H23	屋外便所・物品庫 屋上防水、外壁改修	経年劣化	2,152,500	H23.12～24.2
H23	樹木枝下ろし・伐採	樹木成長・枯死	493,500	H24.2～3

10万円以上を費やしたものを一覧表とした。

要因は3つに分かれる。

第1は、経年劣化・寿命によるもので、最も多い。平成6年の開園およびそれに先立つ工事から15年以上経過し、施設設備の寿命を次々に迎えている。厳しい財政のため、計画的な予備的修繕・交換は難しく、後追いとなりがちである。その中で、導入路、園路の舗装修繕は、バリアフリーという観点を訴えることで早めに予算化できた。整備当初は、自然に近い砂を固めた舗装だったが、堅牢なコンクリート質の舗装に変えた。学習広場の木製テーブル7台中

2台を擬木に交換した。経過観察をふまえて、24年度中に残り5台を交換することになった。

第2は、植生の変化（主に樹木の成長と立ち枯れ）が原因となるもので、植栽維持管理費の予算枠内から捻出しているほか、職員作業でも、年に数回枝下ろしなどを行っている。

第3は、災害の影響によるものである。公園内施設は震災による直接破損は無かったものの、夏季の節電対策として、展示用スポットライトを白熱電球からLEDに交換した。カタログ値に比べ体感的な照度は不足がちになってしまった。

(2) 難波田城公園運営事業

年度	修繕箇所	原因	執行額	工期
H20	レインクラー設備呼水槽等交換	経年劣化	441,000	H20.8～9
H21	レインクラー設備蓄電池交換	電池寿命	840,000	H21.7～8
H21	古民家畳表裏返し（緑付き 34 畳）	経年劣化	107,100	H21.11～12
H21	難波田城公園板堀部分修繕	隣接地出火による延焼	682,500	H21.11～22.1
H21	難波田城資料館外壁塗装	経年劣化	3,118,500	H22.2～3
H21	便所洋式化	バリアフリーのため	567,000	H22.1～2
H21	循環ろ過施設ろ過ポンプ交換	経年劣化	315,000	H22.3
H21	菖蒲田排水路整備	排水路埋没	職員作業	H22.3
H22	旧金子家ヘツツイ	使用時の熱による経年劣化	609,000	H22.12～23.3
H22	レインクラー消火槽	パイプ隙間から木根繁茂	79,800	H23.1
H22-23	城跡ゾーン園路・古民家前庭舗装	経年劣化	22,648,500	H23.2～4
H23	館内多目的便所オストメイト対応	バリアフリー （障害福祉課予算）	1,772,400	H23.12～24.3
H23	公園内旧鈴木家表門等漆喰壁修繕	震災による亀裂	630,000	H23.11～24.3
H23	資料館外壁	震災による亀裂	525,000	H23.11～24.3
H23	公園内地中漏水	経年劣化（震災も影響か）	147,000	H24.1
H23	公園内駐車場区画線	経年劣化	120,750	H24.2～3
H23	資料館屋外給湯器修繕	節電による凍結	139,650	H24.3

10万円以上を費やしたもののおよび、その他で重要なものを一覧表とした。要因は4つに分かれる。

第1は、経年劣化・寿命によるもので、最も多い。平成12年の開園およびそれに先立つ工事から10年以上経過し、施設の補修・交換時期を次々に迎えている。厳しい財政のため、計画的な予備的修繕・交換は難しく、後追いとなりがちである。

第2は、施設のバリアフリー化を目的とするもので、トイレの修繕2件のほか、園路・古民家前庭の舗装修繕も、バリアフリーという観点を訴えることで早めに予算化できた。

第3は、災害によるものである。隣地の出火は、消火ホースの周囲を片づけた直後であり、すみやかに

に自主消火できたことが、不幸中の幸いだった。以後、消火設備・消火器が速やかに使用できるよう、注意して管理し、消火訓練にも励んでいる。震災による亀裂はただちに予算化された。節電に励んだ過程で、給湯器の凍結防止機能が不足した。これも間接的には震災といえよう。

第4は、予想外のものである。レインクラー（放水銃型消火装置）の貯水槽のパイプのわずかな隙間から木の根が入り込み、10年をかけて水面を覆うほどに繁茂した。定期点検で見えなかったが、気付かなければ非常時に動作しない可能性もあった。水を抜いたときに、暗い水槽内でパイプから垂れ下がった根は、あたかもモンスターのようであった。

Ⅲ 資料館事業の報告

1 水子貝塚資料館

(1) 展示

① 企画展 (常設展示室を一部入れ替え)

会期	タイトル	内 容	図録
H19/ 8/24 -10/ 8	平成 19 年度夏季ミニ企画展 「近所の遺跡—水子貝塚周辺—」	水子貝塚周辺に分布する遺跡を紹介し、出土資料を展示。	なし
H20/ 1/ 8 - 3/23	平成 19 年度季企画展 「縄紋多種彩々」	縄文土器や弥生土器を飾る多様な縄目模様とその研究のあゆみを紹介。	A4 版 18 頁
H20/8/24 -10/5	平成 20 年度夏季ミニ企画展 「学校に眠る遺跡」	みずほ台小学校、針ヶ谷小学校、富士見台中学校などの敷地に大規模な遺跡が存在したことを紹介	なし
H21/ 1/10 - 3/15	平成 20 年度企画展 「富士見に海が来た頃」	「打越式土器」提唱 30 年を記念した企画展。打越式の出自や系譜をたどる。シンポジウムも開催。	A4 版 18 頁
H21/ 8/22 - 9/23	平成 21 年度夏季ミニ企画展 「フォーカス 富士見の遺跡」	ふじみ野駅周辺の遺跡から出土した資料を展示。	なし
H22/ 1/30 - 3/22	平成 21 年度企画展 「縄文土器と動物装飾」	市内羽沢遺跡出土の県指定有形文化財獣面装飾付土器をはじめとする猪装飾の施された土器。	A4 版 30 頁
H22/ 8/29 -10/ 3	平成 22 年度夏季ミニ企画展 「小さな土器の世界」	縄文土器を中心に小型土器を展示し、通常サイズの土器との規格の比較や用途について紹介。	なし
H23/ 1/ 9 - 2/27	平成 22 年度企画展 「縄文人の装身具」	埼玉県内の遺跡から出土した縄文時代のペンダントや耳飾りなど。翡翠の穿孔実験も行った。	A4 版 26 頁
H23/ 8/28 -10/16	平成 23 年度夏季企画展 「縄文時代の彩色土器」	市内及び近隣市町の遺跡から彩色された浅鉢を展示。彩色方法や使用材料についても解説。	なし
H24/ 1/15 - 3/11	平成 23 年度企画展 「縄文土器と動物装飾 2—蛇—」	平成 21 年度に開催した「縄文土器と動物装飾」の第 2 弾として、蛇装飾の施された土器を展示。	A4 版 26 頁

② 企画展関連事業

開催日	事業名	講師・指導者	人数
H20/ 1/27	ふじみ考古学教室「右巻き？左巻き？—縄紋入門—」	早坂廣人 (水子貝塚資料館)	34
H20/ 2/ 9	ふじみ考古学教室「縄紋を極める」	黒坂禎二 (埼玉県埋蔵文化財事業団)	41
H20/ 2/23	ふじみ考古学教室「南と北から見た縄文土器の境界」	伊藤慎二 (國學院大學)	36
H20/ 3/ 2	ふじみ考古学教室「弥生土器の縄文」	石川日出志 (明治大学)	40
H20/ 3/15	ふじみ考古学教室「“縄紋博士” 山内清男の仕事」	大村裕 (下総考古学研究会)	33
H21/ 2/28	ふじみ考古学教室「富士見に海が来た頃」 「打越遺跡と打越式土器」 「富士見に海が来た—縄文早期の富士見市—」 「東海地方の貝塚と遺跡」 「縄文の植物食—縄文農耕はあったのか—」	荒井幹夫 (水子貝塚資料館長) 早坂廣人 (水子貝塚資料館) 小崎晋 (日本考古学協会員) 中沢道彦 (日本考古学協会員)	101

開催日	事業名	講師・指導者	人数
H21/ 3/ 1	シンポジウム「打越式土器とその時代」 「“打越式” への研究史」 「打越式土器の範囲・変遷・年代」 「縄文時代早期の水産資源利用」 「打越期の石器と石製品」 「縄文早期末の住居跡と遺構」 「縄文早期末の集落と社会」 ※打越式シンポジウム実行委員会と共催 ※資料集『打越式土器とその時代』刊行 ※シンポジウム記録集『縄文海進の考古学』が平成 22年に六一書房より刊行された	毒島正明（蓮田市役所） 早坂廣人（水子貝塚資料館） 領塚正浩（市立市川考古博物館） 加藤秀之（富士見市教育委員会） 和田晋治（難波田城資料館）・ 隈本健介（富士見市教育委員会） 金子直行（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）	99
H21/ 3/ 7	貝塚を歩こう ～富士見江川流域の貝塚めぐり～	早坂廣人（水子貝塚資料館）	16
H22/ 2/14	ふじみ考古学教室「炭素 14 年代測定を利用した縄文時代の研究」	小林謙一（中央大学）	25
H22/ 2/27	ふじみ考古学教室「入間東部地区の縄文中期の遺跡」	和田晋治（水子貝塚資料館）	32
H22/ 3/13	ふじみ考古学教室「人面・動物裝飾付土器の系譜」	和田晋治（水子貝塚資料館）	32
H23/ 1/22	ふじみ考古学教室「ヒスイ珠から縄文時代のムラを考える」	栗島義明（県立さきたま史跡の博物館）	24
H23/ 2/ 5	ふじみ考古学教室「縄文時代の貝製装身具」	忍沢成視（市原市埋蔵文化財センター）	25
H24/ 2/11	ふじみ考古学教室「狭山丘陵の縄文人」	千葉敏郎（東村山ふるさと歴史館）	36
H24/ 2/25	ふじみ考古学教室「考古学と科学」	丑野毅（東京国際大学）	36

(2) 教育普及事業

① 土曜おもしろミュージアム（毎月第1・第3土曜日の午前・午後2回開催）（延べ人数/回数）

事業名	H19	H20	H21	H22	H23
まが玉づくり	643/14	426/16	266/ 6	311/ 8	286/ 8
ミニチュア土器づくり	73/ 6	122/ 6	167/ 4	111/ 4	93/ 6
土笛づくり	58/ 4	15/ 2	90/ 2	75/ 2	33/ 2
貝殻アート	38/ 2	-	-	-	-
土版づくり	-	42/ 2	-	-	-
泥メンコづくり	-	9/ 2	-	-	-
貝殻ペンダントづくり	-	32/ 2	-	-	-
ネイチャーアート	-	17/ 2	-	-	-
石の耳飾りづくり	-	14/ 2	21/ 2	-	-
縄文土器のペーパークラフトづくり	-	-	24/ 4	-	-
ブーメランづくり	-	-	30/ 2	32/ 2	-
竹とんぼづくり	-	-	121/ 4	77/ 2	49/ 2
草木染め	-	-	17/ 2	73/ 2	126/ 4
ウッドクラフトづくり	-	-	45/ 2	96/ 4	62/ 4
縄文クッキーづくり	-	-	24/ 1	50/ 2	32/ 2

石のアクセサリーづくり	-	-	187/ 4	-	48/ 2
貝の腕輪づくり	-	-	-	20/ 1	-
土の耳飾りづくり	-	-	-	23/ 2	-
縄文ポシェットづくり	-	-	-	13/ 1	58/ 2
アングンのコースターづくり	-	-	-	26/ 2	8/ 2
藍染	-	-	-	-	20/ 2
組紐のミサンガづくり	-	-	-	-	86/ 2

② ミューズランド plus (単位 延べ人数/回数)

事業名	H19	H20	H21	H22	H23
硬い石のまが玉づくり	44/ 4	17/ 2	-	-	-
土器・埴輪づくり	25/ 4	-	-	-	-
石の耳飾りづくり	27/ 4	-	-	-	-
骨角器づくり	20/ 2	-	-	-	-
土器の拓本	12/ 4	-	-	-	-
麻紐の壁飾りづくり	11/ 2	7/ 2	-	-	-

③ 体験学習事業 (単位 人)

事業名	内 容	H19	H20	H21	H22	H23
夏休み縄文体験	竪穴住居宿泊など。小学4～6年対象。全3日	9	18	21	9	6
土器づくり教室	本格的な縄文土器づくり。全4回。	13	20	12	22	16
古代の鏡づくり	青銅鏡の鋳込から研磨まで。7月と11月に開催	-	-	-	-	15

④ 公園活用事業

開催日	事業名	内 容	人数
H20/ 2/24	縄文の森コンサート	岡崎裕子&ハミングバードによるオカリナ演奏	90
H21/11/29	縄文の森コンサート	石山裕雅「太古につなぐ笛の組曲」	115
H22/11/27	縄文の森コンサート	井上晴恵「秋の午後をフルートと共に」	130
H23/11/27	縄文の森コンサート	アンサンブル凜	120

⑤ 共催事業

開催日	事業名	内 容	人数
H19/ 9/ 8	水子貝塚星空シアター	映画「森のリトルギャング」	3,800
H20/ 9/ 7	水子貝塚星空シアター	映画「サーフズ・アップ」	2,800
H21/ 9/ 5	水子貝塚まつり・水子貝塚星空シアター	映画「カンフーパンダ」	3,300
H22/ 9/ 4	水子貝塚星空シアター	映画「カールじいさんの空飛ぶ家」	3,300
H23/ 9/ 4	水子貝塚星空シアター	映画「トイ・ストーリー3」	2,800

⑥ 協力事業 (単位 人)

事業名	H19	H20	H21	H22	H23
戸田市立郷土博物館「夏休みこども体験講座 古代人の生活体験」	20	20	20	20	20
ふじみ野交流センター「まが玉づくり」	60	60	60	60	60

富士見市体育協会「水子貝塚親子ミニ駅伝」	150	150	150	150	150
富士見市体育協会「縄文マラソン」	2000	2000	2000	2000	2000

⑦ その他の事業

事業名	H21	H22	H23
じゅず玉の腕輪づくり	79	46	46
手づくりコイノボリ配布	80	100	※
縄文土器のペーパークラフトづくり	55	-	-
まが玉づくり	2	12	92
カラー粘土のまが玉づくり	19	-	-

事業名	H21	H22	H23
木のブンブンゴマづくり	-	19	-
トチの実の笛づくり	-	40	25
貝の腕輪づくり	-	17	50
火起し体験	-	-	90

※平成 23 年度の手づくりコイノボリは、東日本大震災義援金のために市民学芸員が製作し 1 本 100 円で販売した。980 本売上げ、募金と合わせた 121,750 円をすべて義援金として寄付した。

(3) 収集・保存・調査研究・活用

① 調査研究

資料の調査・研究を推進し、展示、事業、情報提供等の充実をはかるため下記の事業を行った。

- ・水子貝塚に関する調査研究 ・「獣面装飾付土器」の類例の集成 ・企画展テーマに関する調査研究

② 資料の利用

(単位 件)

分類	内容	H19	H20	H21	H22	H23
館内利用	学術研究に伴う資料熟覧、写真撮影等	5	3	2	2	3
館外利用	資料の貸出し、出版物掲載等	10	8	7	8	6

(4) 学校教育との連携

① 小学校授業関係

(単位 校)

内容	H19	H20	H21	H22	H23
小学校 6 年生歴史学習、総合的学習への対応	16	15	18	18	16
小・中学校出前授業	2	2	2	2	2

② 実習・社会体験

(単位 人)

内容	H19	H20	H21	H22	H23
博物館実習	5	2	2	2	0
インターンシップ	-	2	3	2	2
中学生はつらつ社会体験	6	9	6	6	11
教員研修	10	15	13	4	2

* H19 ~ 21 は初任教員夏期研修あり

(5) 広報

- ・平成 21 年度 水子貝塚資料館展示解説「よみがえる富士見の原始古代」印刷 1,000 部
- ・平成 23 年度 水子貝塚公園リーフレット改訂版印刷 15,000 部
- ・市公式サイト 平成 22 年度から各課の自主編集となり、イベント告知を中心に月 1 回以上更新

2 難波田城資料館

(1) 展示事業

① 企画展（特別展示室）

会期	タイトル	内 容	図録
H19/10/20 -12/26	平成 19 年秋季企画展 「新河岸川 船の道具」	近世・近代に江戸・川越間の物資輸送の中心だった新河岸川舟運で使用されていた収蔵資料を紹介	なし
H20/ 3/ 8 - 5/11	平成 20 年春季企画展 「草屋根の年中行事」	大正時代から昭和 30 年代頃まで、市内で行われていた年中行事について、収蔵資料と共に紹介した	A4 版 30 頁
H20/10/25 -12/26	平成 20 年秋季企画展 「稲作の道具」	収蔵資料をもちい、かつて稲作がどのように行われてきたのかについてたどる	なし
H21/ 3/15 - 5/17	平成 21 年春季企画展「戦国の集 落と領主 -水子・鶴馬-」	古文書・考古資料などから、戦国時代における水子・鶴馬地域の領主の存在と新たな集落像を紹介	A4 版 30 頁
H21/10/25 -12/26	平成 21 年秋季企画展 「昔のあかり」	灯明皿から蛍光灯まで、館蔵資料を主体に照明器具やエネルギー源の変遷、地域への受容をたどる	なし
H22/ 3/ 6 - 5/ 9	平成 22 年春季企画展 「富士見のみそ・しょうゆ」	富士見市域の味噌・醤油造りの歴史を、古文書や、元巡回醤油造職人の証言などでたどる	A4 版 28 頁
H22/ 5/22 - 6/20	「難波田城公園イメージキャラクター作品展」	公園イメージキャラクターに応募された作品の、展示と来演者審査（投票とキャラクター名募集）	なし
H22/10/16 -12/26	平成 22 年秋季企画展 「10 年間のいただきもの」	開館十周年記念。10 年間に寄贈された資料をとおり、資料の収集目的や意義、特質を紹介	なし
H22/ 3/12 - 5/22	平成 23 年春季企画展「水害と闘 う -富士見市の洪水被害と今-」	明治の大水害から 100 年にあたり、中世から現代までの水害のありようと人々の闘いの跡をたどる	A4 版 28 頁
H23/10/22 -12/25	平成 23 年秋季企画展 「遺跡が語る富士見市の中世」	多門氏館跡の最新の発掘調査成果を中心に、考古学的に見た富士見市域の中世を紹介	なし
H24/ 3/10 -24/ 8/19	平成 23 年春季企画展「世界一の砲 丸職人 -辻谷政久氏のものづくり-」	市内在住で、3 大会連続五輪メダルを独占した砲丸の製作者の技と心を紹介	A4 版 28 頁

② 企画展関連事業

開催日	事業名	講師・指導者	人数
H19/12/ 1	押し絵羽子板づくり（穀倉展示関連企画）	渋川真春（押し絵羽子板職人）	21
H19/12/ 8	講演会「新河岸川舟運と富士見」	高木文夫（上福岡歴史民俗資料館）	27
H21/ 3/22	講演会「中世の“都市的な場”と芸能」	落合義明（東海大学）	18
H21/ 3/29	講演会「水子・鶴馬の城館と町場」	石塚宏明（当館）	35
H21/12/18	講演会「もっと光を -富士見の近代化と灯り-」	早坂廣人（当館）	5
H22/ 3/11	古民家で味噌づくり。3/11-3/13	岡田栄子（地元住民）	16
H22/ 3/22	講演会「醤油醸造の地域史」	井奥成彦（慶應大学）	18
H23/ 3/21	講演会「メディアに見る明治 43 年の大洪水」	領塚正浩（市川考古博物館）	中止
H23/ 3/26	体験講座「歩いて探そう！水塚と堤」	市民学芸員	19
H24/ 3/17	講演会「砲丸づくりと私の人生」	辻谷政久（砲丸職人）	50

③ 穀蔵展示（古民家ゾーン穀蔵展示室で年 1 回更新）

開始日	タイトル	内 容
H19/ 8/24	押し絵羽子板	市内で今も製作されている押し絵羽子板とその製作道具を紹介
H20/ 8/23	昔のラヂオ	昭和 20 ～ 50 年代のラヂオの変遷、生活や世相との関係を紹介
H21/ 8/23	木挽きの道具	製材の機械化以前の木挽きを、収蔵品と聞き取り記録により紹介
H22/ 8/ 7	養蚕の道具	昭和 20 年代まで市内でも盛んだった養蚕を、道具をとおりて紹介
H23/ 8/ 6	夏を涼しく 冬を暖かく	エアコン普及以前の夏冬を過すための、暖房具や衣食住等を紹介

④ マイミュージアム（市民・団体に特別展示室を提供）

会 期	タイトル（内容）
H19/8/25～9/1	「よちよち歩きの作品展」（ホビーズクラブに参加する幼児の作品）
H20/1/13～2/3	「絵手紙の会作品展」
H20/2/3～2/27	「南畑幼稚園作品展」（園児の作品）
H20/2/29～3/2	さきおり展
H20/5/17～6/8	「資料館友の会合同作品展」
H20/8/23～9/5	「よちよち歩きの作品展」（ホビーズクラブに参加する幼児の作品）
H20/9/23～10/5	「富士見市で出逢える自然（じねん）」（温泉人氏の写心とエッセイ、講演）
H20/1/17～2/8	書き初め展（子ども書き初め練習会の作品）
H21/2/13～3/3	「南畑幼稚園作品展」（園児の作品）
H21/8/22～9/11	「よちよち歩きの作品展」（ホビーズクラブに参加する幼児の作品）
H22/1/16～1/31	書き初め展（子ども書き初め練習会の作品と硯友会の作品）
H22/2/6～2/23	「南畑幼稚園作品展」（園児の作品）
H22/8/21～9/4	「よちよち歩きの作品展」（ホビーズクラブに参加する幼児の作品）
H23/2/5～2/20	「南畑幼稚園作品展」（園児の作品）
H23/5/27～6/23	「傘寿記念 渡辺日出男作品展」（能面、木工など）
H23/6/25～7/24	「資料館友の会ふるさと探訪部会 10周年記念展」
H23/8/28～9/10	「よちよち歩きの作品展」（ホビーズクラブに参加する幼児の作品）
H23/9/15～10/10	「87歳の写真展」（渋谷進氏）
H24/2/4～2/19	「南畑幼稚園作品展」（園児の作品）
H24/3/10～8/19	マイ・りとり・ミュージアム「東京オリンピックの記念品」 （市民学芸員小森和雄氏。展示ケース1台でホールに展示。企画展連動ミニ展示）

⑤ 古民家内季節展示

五月人形・鯉のぼり、七夕のマコモ馬・笹飾り、蚊帳、お月見、初正月のお祝い、マユ玉ダンゴ、雛人形

(2) 教育普及事業

① 主催事業

(単位 人)

事業	開催時期	指導者	H19	H20	H21	H22	H23
田んぼ体験隊(全5回)	5～12月	地元農家。H23から全7回	79	86	101	57	41
よろいを着てみよう <i>c</i>	5月上旬	川越藩火縄銃鉄砲隊保存会	33	55	41	58	41
懐かしの自転車紙芝居 <i>c</i>	5月ほか	わんだあ民話らんど	81	24	154	228	67
ふるさと探訪(年2回)	5月中旬 10月中旬	資料館友の会	34	41	28	35	29
		ふるさと探訪部会	21	21	46	35	31
浴衣着付け教室 <i>f</i>	7月上旬	和道文化着装協会	13	6	3	2	3
夏休み古民家宿泊体験	8月頃	市民学芸員	22	26	18	14	19
藍の生葉染め <i>f</i>	8月頃	市民(染色愛好家)	10	13	10	-	9
お月見だんごづくり <i>f</i>	9月上旬	市民学芸員	35	10	10	20	15
拓本教室	夏～秋頃	資料館友の会拓本部会	2	3	5	1	3
竹かご作り教室	夏～秋頃	資料館友の会竹かご部会	10	6	10	10	18
はたおり教室(全4回)	夏～秋頃	資料館友の会木綿部会	7	9	5	8	-
さきおり教室(全3回)	秋頃	ふじみ手織の会	9	10	5	12	-
思い出の布でバッグインバッグ	10月上旬	美楽の会	-	-	-	-	11
わらざうりづくり <i>f</i>	11月頃	いなほの会	14	7	16	11	5
手打ちそばづくり <i>f</i>	11月頃	市民(そば打ち愛好家)	21	9	16	-	16
子ども書き初め練習会	12月下旬	硯友会	41	29	24	23	40
正月飾りづくり <i>f</i>	12月下旬	地元住民	30	19	18	19	18
古文書講座(全3回)	1～2月	近世史研究者	11	18	18	23	12
昔の着物を着てみよう <i>c</i>	3月下旬	和道文化着装協会	-	-	49	26	60

*c*は「ちょこっと体験」を兼ねる。*f*は「ふるさと体験」。

② ちょこっと体験

(単位 延べ人数/回)

毎土日祝日に、幼児も大人も手軽に楽しめる 昔の生活体験やおもちゃ作りを実施している	H19	H20	H21	H22	H23
	1597/94	1732/101	2867/98	3111/123	2957/117

事例一覧：いろりの日、ごえもん風呂、さき織り、シュロの葉ハエタタキ、てんびん桶をかつごう、なわなひ、なわなひ機実演、はたおり、ヘチマのスポンジ作り、べっこう飴作り、みそ・しょうゆのおにぎり作り、わたくり、七輪でお餅焼き、昔のあかり、石うす、千歯こき、唐箕体験、麦の脱穀とポーウチ、てるてる坊主、七夕かざり、あぶりだし、ザリガニつり、シャボン玉、ジュズダマの腕輪つくり、トントン紙相撲、割箸鉄砲作り、笹舟、糸巻車作り、糸電話で遊ぼう、松葉のトントン相撲、樟脳舟、水鉄砲作り、折紙で遊ぼう、凧をあげよう、縄であそぼう、墨流しあそび、木の実であそぼう、和紙の凧作り、お年玉袋作り、クリスマスカード作り、コイノボリ作り、サンタの折紙、ひな祭りカード作り、フィルムケースのおひな様、鬼のお面作り、紙コップのおひな様作り、紙のかぶと作り、紙のミニチュアよらい作り、松ぼっくりのツリー作り、折紙のおひなさま、折紙のかぶと作り、大豆のおひな様作り、シュロの葉バッタ作り、ススキのミミズ作り、ホオバの飛行機作り、篠竹鉄砲作り、炭を作ろう、竹のおもちゃ作り、栃の実の笛作り、麦わらで遊ぼう、麦わらのはり絵、麦わら細工、柳の枝のリース作り、柳の枝の輪なげ作り、葉っぱのしおり作り、どうぶつ折紙、牛乳パックのメンコ作り、牛乳パックの紙すき、牛乳パックの飛び龍作り、牛乳パックの飛行機作り、牛乳パックぼっくり作り、紙コップけん玉作り、紙のこん虫作り、紙のバランスとんぼ作り、新聞紙グローブ作り、新聞紙弓矢作り、折紙のしゅりけん、折紙のミニ凧、拓本体験、行灯を作ろう、かざぐるま作り、かっぱラップ作り、キャンドル作り、ゴムで飛ばす飛行機作り、ダイヤ凧作り、デンデン太鼓作り、とびつちよ作り、なんぼったのぬりえ、なんぼったパズル作り、なんぼったミニ凧作り、パッチンがえる作り、パラシュート作り、バランスとんぼ作り、ピロピロ凧作り、ブーブー笛作り、ブンブンごま作り、ペットンゴ作り、ペン立て作り、ミニ凧作り、羽子板・コマ作り、手描きうちわ作り、難波田城凧作り、風船ホバークラフト作り、万華鏡作り、輪ゴムヨーヨー作り

③ 共催事業 (難波田城公園活用推進協議会との共催による事業)

事業	開催日	概要	人数
難波田城公園まつり	6月第1日曜	火縄銃演武、太鼓演奏、昔体験、人力車など	2,000～3000

*平成23年度は、東日本大震災の影響で中止し、「たっぷり！ちょこっと体験」を実施

事業	開催日	概要	人数
秋のミニコンサート	H19/11/10	ライブコンサート (瀬戸龍介&花世)	90
秋のミニコンサート	H20/10/26	なつかしのラジオ歌謡 (アンサンブル SO <大正琴>)	50
古民家コンサート	H21/10/25	チェロ演奏 (守谷新)	105
古民家コンサート	H22/10/24	アイルランド民謡 (長尾晃司<ギター>・中藤有花<ヴァイオリン>)	80
古民家寄席	H23/ 9/18	講談 (神田紅)・太神楽 (鏡味味千代)・落語 (桂小南治)	60
古民家コンサート	H23/10/23	オカリナ演奏 (岡崎裕子・大久保和加恵・黒沢真代<キーボード>)	110

④ 協力事業

事業名	実施時期	主催団体
ちょっ蔵市	毎月第4日曜	難波田城公園活用推進協議会事業部会
手打うどん「お月見亭」	毎月第2火曜	難波田城公園活用推進協議会田舎うどんの会
手作り田舎まんじゅう販売	毎月第1・3日曜	難波田城公園活用推進協議会まんじゅうの会
じゃがいも掘り体験	6月下旬	難波田城公園活用推進協議会事業部会
さつまいも掘り体験	10月下旬	難波田城公園活用推進協議会事業部会

⑤ 公園イメージキャラクターの選定と活用

平成22年に、難波田城公園活用推進協議会との共催で、公園イメージキャラクターを公募し、バッタをモデルとした“なんぼった”を選定した。キャラクターグッズ (携帯ストラップ) の製作・販売や、来園者記念撮影用看板の製作など、公園の活性化のために活用している。



(3) 調査研究・収集整理・保存活用

① 調査研究

資料の調査・研究を推進し、展示、事業、情報提供等の充実をはかるため下記の調査研究を行った。

- ・難波田城に関する調査・研究
- ・民俗資料に関する調査・研究
- ・企画展示関連資料の調査研究

② 資料収集

(単位 点。図書を除く)

分類	特記事項	H19	H20	H21	H22	H23
寄贈資料	主に民具。現代資料も増えてきた	686	560	449	754	842

寄贈された資料は台帳へ登録し、資料番号を注記、計測値や特徴などを資料カードに記載した。

③ 収蔵資料の管理

文庫蔵は、開館日に温湿度を確認している。古民家は、薪による燻蒸を毎開館日に行っていたが、21年度より、安全のために平日の開館日のみとした。

このほか各年度に次のような事業を委託事業として実施した。緊急雇用対策事業を除けば、古文書の燻蒸と撮影を隔年で実施している。

年度	事業	内容
H19	市内古文書 マイクロ撮影	市史編さん事業以来、市内の古文書を少しずつマイクロフィルム化してきた。19年度は2946コマ撮影した。
H20	古文書燻蒸	隔年で、収蔵している古文書を受託業者の専用施設で燻蒸
H21	市内古文書 デジタル撮影	緊急雇用対策事業。市内古文書を高解像度デジタカメラで撮影し、電子化した目録とリンクした。
H21	常設展示資料 デジタル撮影	常設展示している古文書を高解像度デジタカメラで撮影し、電子化した目録とリンクした。
H22	地域史基礎文献 デジタル化	緊急雇用対策事業。古文書解説文や、市史資料編、近代の地誌などをテキストデータとして入力した。
H22	古文書燻蒸	隔年で、収蔵している古文書を受託業者の専用施設で燻蒸
H23	地域史基礎文献 デジタル化	緊急雇用対策事業。古文書解説文や、市史、近代の地誌などをテキストデータとして入力した。
H23	古文書デジタル撮影	収蔵している古文書を高解像度デジタカメラで撮影し、電子化した目録とリンクした

④ 資料の活用

(単位 件)

分類	内容	H19	H20	H21	H22	H23
館内利用	借用下見、学術研究、	12	0	10	5	8
館外利用 (博物館等)	展示、図録掲載等	1	2	1	2	1
館外利用 (学校)	総合学習、社会教材、国語教材等	1	1	2	4	7
館外利用 (その他)	出版物掲載、イベントで展示、地盤調査等	2	5	7	9	12

*介護施設の館外利用が増加している

(4) 学校教育との連携

① 小中学校郷土学習

(単位 件)

名称	内容	H19	H20	H21	H22	H23
園内体験学習	小学校の社会科見学に伴う体験学習	7	11	11	10	12
出前授業	学校に民具等を運んで体験学習	3	2	3	2	4
郷土室対応	余裕教室に設けた郷土室の展示解説や体験学習	3	2	1	1	0
調べ学習対応	主に班単位の、来館しての調べ学習への対応	随時				

*郷土室対応していた学校は、来園しての体験学習に移行した

② 実習・社会体験

(単位 人)

名称	開催時期・日数	内容	H19	H20	H21	H22	H23
博物館実習	7～8月, 10日	資料整理、イベント、展示等	3	1	0	2	2
インターシッパ	7～8月, 10日	施設管理、データ整理、イベント等	-	0	0	2	1
社会体験	不定, 3日	中学生。施設管理、イベント準備等	3	3	6	3	2

*このほか、教員の年次研修なども適宜受け入れている

(5) 広報

- ・難波田城だより 年4回発行、1,000部。4ページ(うち2ページを市民学芸員が編集)
- ・市公式サイト 平成22年度から各課の自主編集となり、イベント告知を中心に月1回以上更新

IV 入館者・利用者

1 水子貝塚資料館

(1) 入館者数

(単位 人)

月	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	個人	団体	総計	個人	団体	総計	個人	団体	総計	個人	団体	総計	個人	団体	総計
4	2,709	1,712	4,421	3,720	1,178	4,898	3,835	1,106	4,941	3,039	2,322	5,361	5,167	2,459	7,626
5	3,243	3,007	6,250	3,706	4,039	7,745	3,832	2,966	6,798	4,097	1,244	5,341	3,518	3,688	7,206
6	2,190	1,156	3,346	2,205	980	3,185	2,422	357	2,779	3,061	165	3,226	2,241	361	2,602
7	1,189	61	1,250	1,717	100	1,817	2,287	39	2,326	2,564	0	2,564	2,184	142	2,326
8	1,586	100	1,686	2,003	15	2,018	2,010	45	2,055	2,232	20	2,252	1,817	58	1,875
9	6,978	185	7,163	2,880	65	2,945	3,604	693	4,297	2,614	6	2,620	2,538	56	2,594
10	2,089	1,143	3,232	2,616	1,213	3,829	2,410	1,228	3,638	2,664	782	3,446	2,249	1,186	3,435
11	1,487	1,106	2,593	2,103	1,032	3,135	2,576	126	2,702	2,623	1,480	4,103	2,242	657	2,899
12	1,101	142	1,243	1,345	205	1,550	1,519	97	1,616	1,517	165	1,682	1,490	259	1,749
1	1,941	454	2,395	1,583	1,289	2,872	2,264	849	3,113	2,394	1,339	3,733	2,686	2,828	5,514
2	1,596	560	2,156	1,712	436	2,148	1,971	778	2,749	1,886	164	2,050	1,691	450	2,141
3	2,303	528	2,831	1,894	338	2,232	1,865	55	1,920	2,059	423	2,482	1,887	341	2,228
計	28,412	10,154	38,566	27,484	10,890	38,374	30,595	8,339	38,934	30,750	8,110	38,860	29,710	12,485	42,195

(2) 見学団体・施設利用

(単位 件)

年度	H19	H20	H21	H22	H23
保育園・幼稚園	15	14	13	15	13
市内小学校	11	10	11	10	10
市外小学校	14	14	16	14	16
市内その他	4	6	6	4	6
市外その他	29	15	16	21	23
体験学習室	27	24	25	26	21

(3) ロケーションサービス

文化財の活用および施設の周知のため、映画等のロケーションを受入れている。無料だが、作品内に施設名を明示することを条件としている。23年度から市役所にロケーション担当部署ができた。

◆ 23年度 テレビ朝日『人類学者岬久美子の殺人鑑定2』／J-COM『埼京伝説』

2 難波田城資料館

(1) 入館者数

(単位 人)

月	平成 19 年度			平成 20 年度			平成 21 年度			平成 22 年度			平成 23 年度		
	個人	団体	総計	個人	団体	総計	個人	団体	総計	個人	団体	総計	個人	団体	総計
4	3,921	151	4,072	3,769	256	4,045	4,815	256	5,071	4,760	307	5,067	4,649	151	4,800
5	4,867	541	5,048	4,710	316	5,026	4,339	193	4,532	5,544	593	6,137	4,400	711	5,111
6	5,727	393	6,120	6,207	454	6,661	5,452	783	6,235	5,961	687	6,648	4,697	1,094	5,791
7	2,916	0	2,916	2,370	191	2,561	3,217	412	3,629	3,059	250	3,309	3,524	246	3,770
8	2,657	21	2,678	2,615	341	2,956	3,561	246	3,807	3,203	143	3,346	3,388	214	3,602
9	3,051	195	3,246	3,356	126	3,482	4,476	226	4,702	2,887	226	3,113	3,079	361	3,440
10	3,586	566	4,152	3,072	851	3,923	4,010	710	4,720	3,506	894	4,400	3,615	983	4,598
11	3,204	622	3,826	2,774	541	3,315	3,183	590	3,773	3,123	476	3,599	3,042	703	3,745
12	2,540	20	2,560	2,073	225	2,298	2,511	394	2,905	2,864	115	2,979	2,978	262	3,240
1	2,071	163	2,234	2,077	203	2,280	3,064	185	3,249	2,670	385	3,055	2,172	178	2,350
2	2,188	102	2,290	2,682	473	3,155	2,397	588	2,985	3,534	468	4,002	2,452	678	3,130
3	4,072	326	4,398	3,004	503	3,507	3,622	456	4,078	3,690	333	4,023	3,506	630	4,136
計	40,800	3,100	43,900	38,729	4,480	43,209	44,647	5,039	49,686	44,801	4,877	49,678	41,502	6,211	47,713

(2) 見学団体・施設利用

(単位 件)

年度	H19	H20	H21	H22	H23
保育園・幼稚園	4	2	4	5	12
市内小中学校	9	13	12	11	19
市外小中学校	8	8	7	7	7
市内その他	9	3	6	10	23
市外その他	21	14	25	36	44
資料館講座室	73	43	43	41	46
旧金子家住宅	57	52	52	43	34
旧大澤家住宅	66	77	77	73	72
特別展示室	4	5	3	3	5

*「その他」は主にデイサービス

(3) ロケーションサービス

文化財の活用および施設の周知のため、映画等のロケーションを受入れている。無料だが、作品内に

施設名を明示することを条件としている。23 年度から市役所にロケーション担当部署ができた。

◆ 19 年度 NHK『AMBITION』／テレビ東京『あなたとの道』／映画『山桜』／DVD『甲本ヒロトよろこびのうた』／DVD『美しき日本の歌』／住宅設備会社案内ビデオ／『別冊モーターサイクリスト』
 ◆ 20 年度 映画『春琴抄』 ◆ 21 年度 映画『たからもの』／シティボーイズ Film noir
 ／百貨店通信販売カタログ ◆ 22 年度 テレビ東京『トコトンハテナ』／インリースケートデモ映像（ネット用）／中学生総合学習自作ビデオ／結婚記念写真見本／百貨店通信販売カタログ ◆ 23 年度

TBS『今夜はヒストリー』4 回／テレビ朝日『報道ステーション』／BS12『生活向上エンタテインメント』／名古屋テレビ『マゴの時間』／映画『たからもの』／映画『君がいた夏』／テレビ大阪『百人一首の世界』

V 支援組織・関連団体

1 市民学芸員

(1) 制度の目的

富士見市立資料館では、より市民に開かれた資料館、歴史公園運営を目指し、市民が自ら参加学習しつつ、人生経験を生かし、資料館運営に参加する制度として、市民学芸員制度を実施している。

(2) 養成

平成 12 年度からスタートした市民学芸員制度は任期が 3 年のため、平成 24 年度からの第 5 期市民学芸員養成を目的として、平成 23 年度に市民学芸員養成基礎講座と各資料館ごとの専門講座を開催した。基礎講座修了後、活動を希望する資料館の専門講座を受講・修了した方の中から、それぞれの資料館担当の市民学芸員として登録していただき、継続して登録された方とともに、資料館の活動に参画していただいている。第 3 期の登録者数は、水子貝塚資料館 26 名、難波田城資料館 29 名、第 4 期の登録者数は、水子貝塚資料館 30 名、難波田城資料館 25 名、第 5 期の登録者数は、水子貝塚資料館 28 名、難波田城資料館 29 名である。

(3) おもな活動

毎週土・日曜日および祝日には、各館 2～3 名がローテーションで出勤し、展示案内や公園ガイドツアーを行っている。また、資料館主催事業や総合的学習への対応、企画展示などに、それぞれの個性を活かしながら協力していただいている。

毎月 1 回の例会（水子貝塚は第 4 土曜日、難波田城は第 3 土曜日）や、学習会・研修会（年 1～2 回の管外研修[費用は自弁]を含む）、交流会・懇親会などにより、市民学芸員同士および職員との意見交換や情報の共有につとめている。

2 協力団体

資料館を拠点として自主的活動を展開しつつ、資料館事業にも積極的なご協力をいただいている団体を紹介する（代表名、会員数は 24 年 6 月現在）。

富士見市資料館友の会（会長 阿部重男）

考古館（当時）主催事業参加者が中心となり、昭和 58 年に「富士見市立考古館友の会」として発足。平成 12 年に改称。現在、5 部会で構成されている。全体事業は、研修会や友の会だよりの発行、合同作品展など。会員数 50 名。

土器づくり部会（部会長 小川心一）

昭和 58 年に発足。粘土採集から縄文土器の復元製作、調理実験まで。部会員 20 名。

拓本部会（部会長 塩入たま江）

昭和 58 年に発足。市内外の石造物の採拓など。部会員 8 名。

木綿部会（部会長 下島富士子）

昭和 60 年に活動を始め、63 年に部会となる。木綿の栽培から機織りまで。部会員 3 名。

竹かご部会（部会長 山村良宏）

昭和 61 年に活動を始め、平成 2 年に部会となる。竹かご製作技術の継承など。部会員 9 名

ふるさと探訪部会（部会長 稲植保美）

平成 14 年に発足。市内文化財めぐりのガイドなど。部会員 10 名

水子貝塚保存会（会長 山田友昭）

史跡指定地の地権者により昭和 45 年に発足。史跡保存への協力を行ってきた。公有化・整備完了後も、イベントなどを支援している。会員数 25 名。

難波田城公園活用推進協議会（会長 渋谷幸雄）

難波田城公園を積極的に活用し、地域の活性化につなげることを目的に平成 10 年に発足。事業部会（公園活用イベントの企画・実施）、売店部会（公園内売店“ちょっ蔵”の運営）の 2 部会で構成。会員数 29 名。附属団体として、まんじゅうの会（月 2 回、手作り田舎まんじゅうの製造販売）と田舎うどんの会（月 1 回“お月見亭”の運営）がある。

からむしの会（会長 森伸子）

有志により平成 9 年に発足。からむしなどの植物を使い、古代の手法を再現しながら織りや編みに取り組んでいる。会員数 7 名。

ふじみ手織りの会（会長 田辺泉）

はたおり教室受講者有志により平成 12 年に発足。古布による裂き織りなど。会員数 4 名。

美楽の会（会長 涌井美保子）

有志により平成 17 年に発足。わらぞうり作りやコンニャク作りなどの体験。会員数 15 名。

古文書の会（会長 佐々木真理子）

古文書講座受講生により平成 15 年に発足。古文書勉強会。会員数 15 名。

3 加入協議会

埼玉県博物館連絡協議会

埼玉県内の博物館および類似施設から構成されている。全体および地域ブロック単位（当館は西部ブロックに所属）で、研修や情報交換、催物共同案内の作成などを行っている。

埼玉県地域史料保存活用連絡協議会

埼玉県内の自治体の、史料保存を主管する機関（文書館、資料館、市町村史編纂室、文化財保護主管課等）から構成されている。地域史文献目録の作成や、研修、情報交換などを行っている。

入間東部地区文化財保護連絡協議会

入間東部地区 2 市 1 町（富士見市、ふじみ野市、三芳町）の文化財行政主管課・資料館・文化財保護審議会委員から構成されている。次のような事業を行っている。

合同研修：管内研修、管外研修

職員研修：文化財行政研修、資料館研修

入間東部合同最新遺跡報告会

資料館スタンプラリー（達成者記念品は、2 市 1 町文化財オリジナルペーパークラフト）

文化財めぐり

文化財地図「歴史と緑の散歩道」作成

VI 資料報告

難波田城公園の蓮

難波田城資料館 島村敏昭・早坂広人

難波田城公園の城跡ゾーンと古民家ゾーンに挟まれて、蓮池と呼ばれる一角がある。

平成 12 年の開園当初、蓮を植えたが、うまく根付かず、花開くこともなく絶えた。

平成 21 年の春、西川弘男氏（市内水子在住）の斡旋により行田市「古代蓮の里」から、行田蓮の株（蓮根）を分けていただけることとなった。

ザリガニ釣りが楽しめる池となっていたため、網で囲いながらの育成を試みたが、1 年目は失敗に終わった。その冬、池を乾かし土を攪拌してザリガニの死滅を図った。プランターで育てた予備の蓮で再

挑戦した。囲いの中に花開き、外まで根が広がっていった。3 年目は囲いも不要となり、池全面に広がった。4 年目の今年、水面が見えないほどに茂り、朝早くカメラ機材を持ち込む方々も多くなった。

実は難波田城跡の主要部の小字は“蓮田”という。この地名が文字通り蓮に由来するならば、日本在来の蓮が咲き茂る光景は、かつて難波田一族が見たものと同様かもしれない。蓮の実は土中で数百年の命を保つことがある（中国で、出芽した実を年代測定した例がある）。もし、難波田城の堀跡から蓮の実が出土して芽吹いたら、と夢想するこのごろである。



平成 24(2012)年 7 月 29 日早朝の蓮池（背景奥の茅屋根は旧大澤家住宅）

新収蔵資料紹介 -鶴馬・馬場家の板碑-

難波田城資料館 石塚 宏明

平成 20 年 10 月に市内鶴馬地区、殿山遺跡下の馬場家より板碑 3 基が難波田城資料館に寄贈された。

付近には、戦国時代後半の遺構・遺物が出土した殿山遺跡や、板碑や渦巻きかわらけの出土した宿遺跡があり、今回紹介する資料とかかわりの深い地域となっている。以下に板碑を紹介する。

1 阿弥陀一尊種子板碑

残存部の高さ 47.5 cm、幅 19.0 cm、厚さ 2.4 cm を測る。頭部は欠損し、種子はキリク(阿弥陀如来)で蓮座を伴う。貞治六年(1367)九月十二日とある。

2 阿弥陀三尊種子板碑

残存部の高さ 49.0 cm、幅 26.5 cm、厚さ 2.5 cm を測る。上部と下部は欠損し、三尊のうち、サク(勢至菩薩)、サ(観音菩薩)のみを残す。正中二年(1325)十一月日とある。

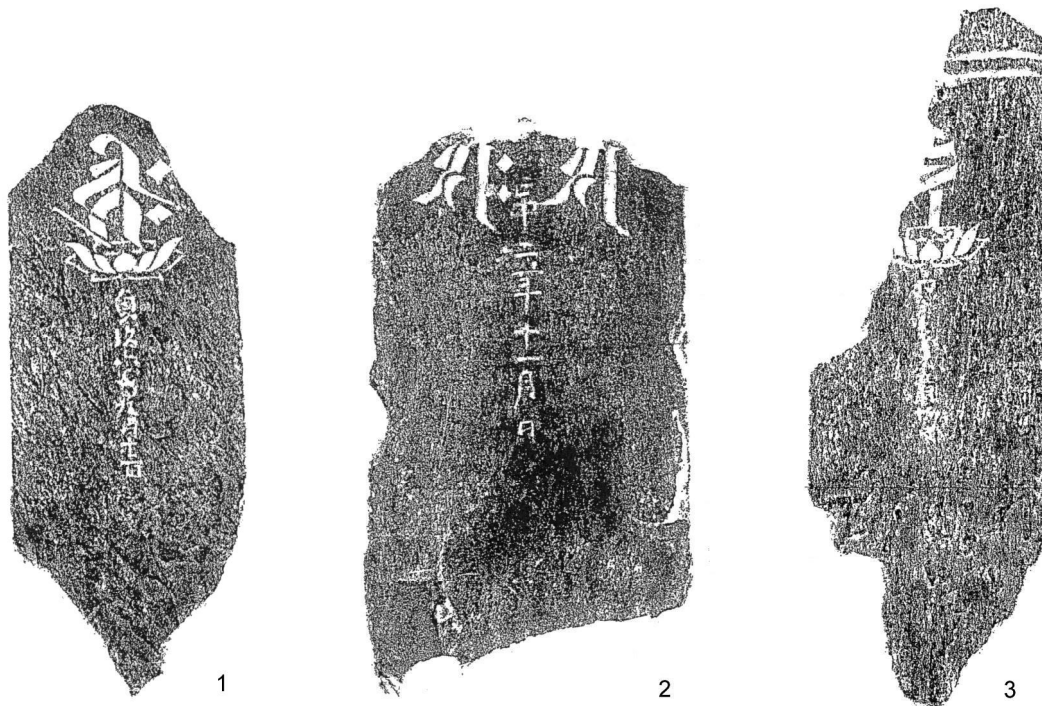
3 金剛界大日如来種子板碑

残存部の高さ 55.0 cm、幅 18.5 cm、厚さ 2.0 cm を

測る。上から山形、二条線を刻み、種子はバン(金剛界大日如来)で蓮座を伴う。康暦二年(1380)五月廿日とある。

金剛大日如来種子板碑は、今回の資料を含め富士見市では 3 点のみである。1 つは針ヶ谷西光院墓地の元徳 3 年(1331)の板碑、もう一つは難波田城跡出土の康暦 3 年(1381)の板碑である。時期的には、難波田城のものと近く、同時期に宿や殿山地域でも大日如来の信仰があったことを示す。難波田城との関係性は不明であるが、周辺から渦巻きかわらけなども出土していることにも注目したい。

この地域では、14 世紀前半から 16 世紀初頭までの板碑が多く、馬場家では 1350 年代から 1380 年代にかかる現亡資料も過去に報告され、その多くが阿弥陀一尊板碑である。その他結衆板碑の一部と思われる図像板碑片も馬場家墓地に残っており、中世の人々の活動の形跡を伝えている。



鶴馬・馬場家から寄贈された板碑 (S=1/6)

富士見市南通第3地点出土の弥生土器について —オオバコ回転文の一事例—

松戸市教育委員会 峰村 篤

ここに紹介する資料は、富士見市南通遺跡第3地点 255 住居跡から出土した弥生時代後期の土器である。この資料は既に富士見市遺跡調査会により報告書が刊行されているが(1)、最近筆者は、水子貝塚資料館で当該資料を見学する機会があり、施文されている回転圧痕がオオバコの花茎を原体とする、いわゆるオオバコ回転文であることを知った。これについては、学芸員の早坂広人氏も既に実験などを進めていた経緯もあり、今回、氏の勧めによりこの土器について紹介を行うことにした。

資料は弥生時代後期中葉に位置付けられると考えられる壺形土器である。下に報告書より転載した実測図と、資料館の許可を得て採拓したものを掲載する。口縁部はいわゆる複合口縁を有し、横のキザミが施された棒状浮文が二本一対で付されている。胴下半部に最大径を持つ。オオバコ回転文は、口縁部、及び頸部・胴上半部に施文される。口縁部では深く密接して施文されるが、頸部・胴上半部では回転の単位が分かるような空白部を部分的に残しながら結節区画間のスペースを埋めるように、やや疎らに施文されている。口縁部は、屈曲する端面と複合面に密接して二段施され、オオバコ回転文施文後に棒状浮文が付けられる。頸部・胴上半部は二列一組となった結節縄文で上下を区画している。結節縄文は一段 R を撚戻しながら一重結びしていると考えられ、圧痕は Z 字状を呈する。

弥生時代後期に属するオオバコ回転文については、以前千葉県的事例について紹介したことがあるが、本例のように壺形土器

の結節区画と併用施文される例は初見である。前稿では、同原体がいわゆる「北関東系」の型式群には稀で、県南西部に集中する状況が推察された(2)。その後も幾つか管見に触れているが、同原体の研究者への周知により今後各地域で報告例が増加する事によって改めて本資料の有する意義も判然としてくるであろう。

この資料紹介に当たり、小出輝雄氏には土器の位置付けなどについて懇切なご教示を得た。記して感謝の意を表したい。(2009年2月受領)

【註】

- 1) 小出輝雄 1983 「針ヶ谷遺跡群 -南通遺跡第3地点の調査-」 富士見市遺跡調査会調査報告第21集 185図(181頁)4の土器。
- 2) 峰村篤 2007 「偽縄文を施文する弥生時代後期の土器」 やちくりけん創刊号
峰村篤 2007 「偽縄文を施文する弥生時代後期の土器について(その2)」 利根川 29

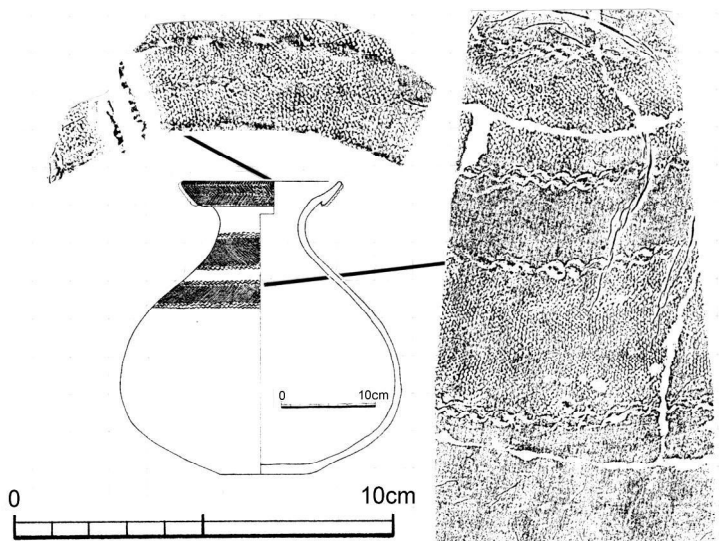


図1 南通遺跡のオオバコ回転文施文土器(S=1/8, 拓影 1/2)

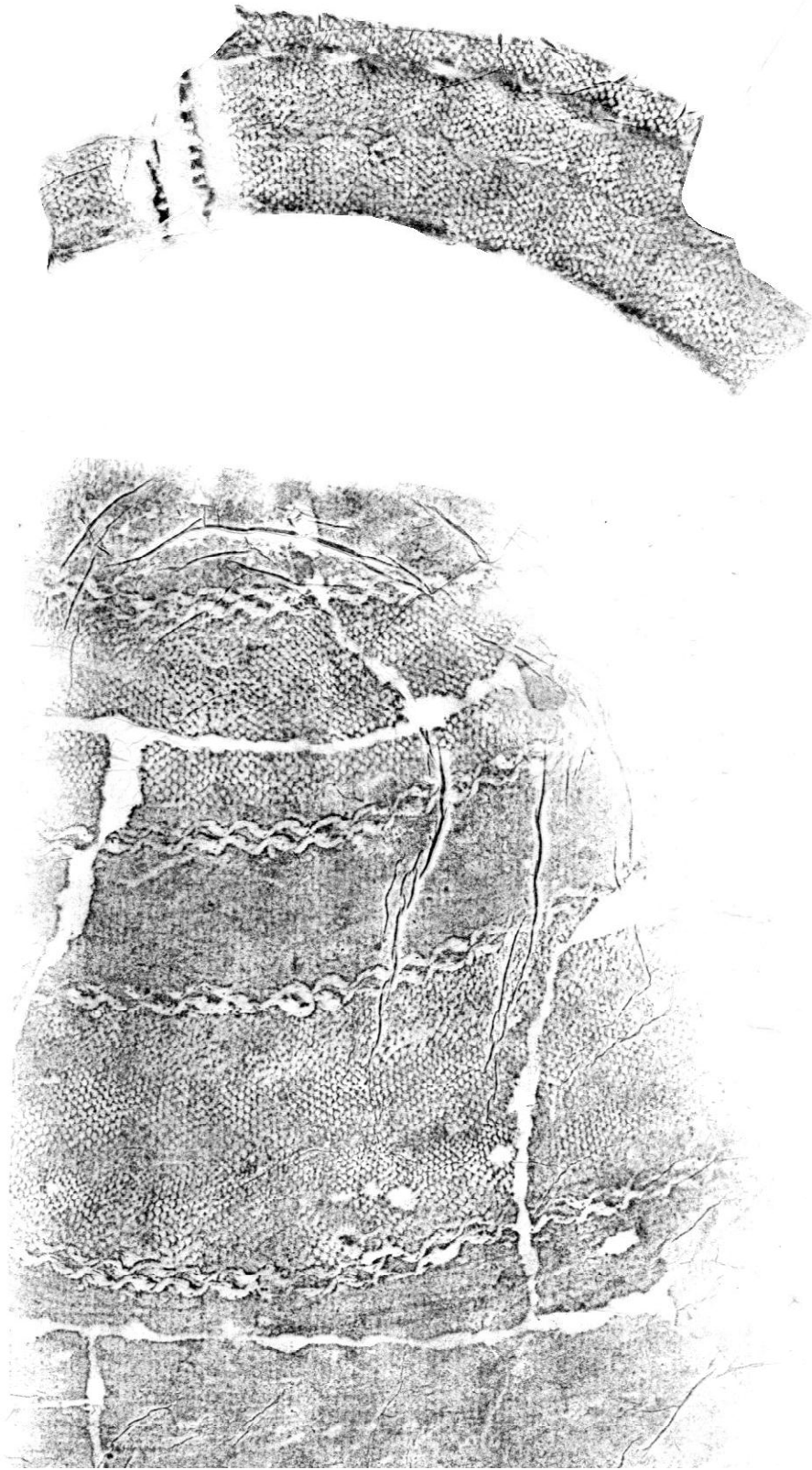


図2 オオバコ回転文の拓影（原寸大）

富士見市立資料館活動報告 2012

水子貝塚資料館・難波田城資料館

平成 19 ～ 23 年度の活動

平成 24 年 9 月 1 日発行

編集・発行 富士見市立資料館

本館 富士見市立水子貝塚資料館

〒 354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003 番地 1

TEL 049-251-9686 FAX 049-255-5596

分館 富士見市立難波田城資料館

〒 354-0004 埼玉県富士見市大字下南畑 568 番地 1

TEL 049-253-4664 FAX 049-253-4665